



旧 赤尾耳鼻咽喉科医院 撮影：間瀬憲隆／スタジオ・ミュー

今月のトーク/monthly talk

歴史的な街と医院

海面から湧き上がるもやがそのまま陸地に流れ込み、緑の山々に溶けこんでうっすらと町を包み込んでいきます。もうすぐ入梅という6月初旬、鎌倉の江ノ電の線路近く、商店街から少し入ったところに、今回ご紹介する赤尾耳鼻咽喉科医院の新しい建物が竣工しました。

鎌倉で開業されて70年の赤尾耳鼻咽喉科医院。これまでの医院兼住居は、和洋の形式を併せ持った洋館でした。新医院での診療をスタートする3日前まで、院長の赤尾一郎先生は、この洋館で診療を行っていました。

鎌倉には、大正の後半から昭和10年ころまで、旧武家屋敷や華族、実業家の別荘など、たくさんの洋館が建てられる「洋館ブーム」がありました。その構造や外観の独特な雰囲気が、これまで多くの市民に親しまれてきました。しかし、長い年月の中では老朽化して取り壊さざるを得ない建物も少なくありません。

全国各地の同様の動きを受けて、昭和30年代後半から、各地の自治体の中には、条例を制定して、これらの歴史的建築物の保全に乗り出すところも出てきました。鎌倉市も平成2年に「鎌倉市洋風建築物の保存のための要綱」を定めそれらの保存と活用にも努めてきました。平成8年には、「鎌倉市都市景観条例」が施行され、これら洋風建築物に加え和風建築物や門、塀などの工作物を「景観重要建築物等」として保存と活用を図る制度が設けられました。

この赤尾医院も、何度か指定建物の推薦を受けましたが、先代の赤尾昭先生は3代目の一郎先生にその選択をゆだねられました。木造の建物は、3年ほど前に待合室の梁が落ちて危険なため、工務店に見てもらったところ、シロアリの被害が甚大で普通のリフォームでは対応できないことがわかりました。加えて医院の設備投資が求められる中、

現在の木造では限界があるということが、一郎先生に建て替える決意をさせることとなりました。

新しい医院の設計は、土地の有効活用も踏まえ、20回近いプランニングの変更を行いました。やっと地鎮祭を迎え、着工することになりましたが、上棟式を前に先代は急逝され、もともと先代一家が住むことになっていた2階住居部分は息子様世帯へ、1階を母上の住居とする新たなプランへの変更が行われたのでした。

医院を継承することになった一郎先生は、システムアドミニストレーターの資格を持っているほどコンピュータに詳しい先生です。患者さんのデータの電子化を目指すとともに、レントゲンでの撮影データもすぐに取り込んで参照できるようにしています。患者さん自身が座ったまま患部を確認できるよう、診察室にはモニターを3台も設置しています。医院の公式HPもご自分で作成して、耳鼻咽喉関係の病気や治療への理解を深めてもらおうといういろいろな情報をアップされています。患者さんのスムーズな受診について、建物の引渡し後もいろいろと検討を重ねられています。

古い建物については、解体して駐車スペースとなる予定です。鎌倉はほとんどの地域で地面を掘れば、遺跡・遺構が出る歴史的な街です。条例により建物の基礎を作るために深く地面を掘るようであれば、遺跡発掘調査が必要になります。住居部分には調査費用のための補助金が出ますが、医院など営業施設となると費用は出ないのです。建て主は経済的な選択をせざるを得ません。歴史的な町並みの保存は、土地や建物の持ち主、建て主だけに負担を強いるのではなく、その良さを享受するすべての人、たとえばその町を訪れる人々皆で応分の負担をするときにきているのではないのでしょうか。

赤尾耳鼻咽喉科医院



地域の医療を担う3代目の耳鼻咽喉科医院

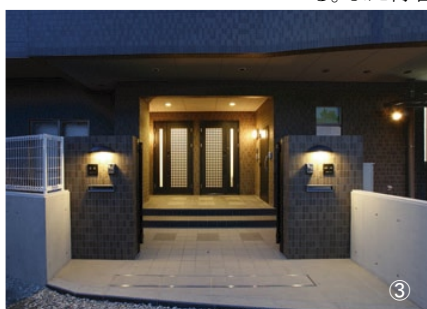
築70年の洋館で開業されている医院の新築工事である。

既存建物に付随する庭の部分を建物の敷地としたため、営業に支障なく工程を組むことができ、余裕のある計画であった。

鎌倉市の条例により、建物の基礎を作るために地面を深く掘るようであれば、遺跡発掘調査が要求される場合がある。経済的、工期的な選択により、今回は、予備調査で90cmにしていた基礎の深さを30cmあげ、地面を深く掘らないで済む「フローティング基礎」を採用した。

外観はタイルとコンクリート打ち放し、ガラスブロックを組み合わせた、すっきりとしたデザインである。正面に医院入口、住居部分は向かって左が入口となっている。高齢者の患者が多く、オープンな駐車スペースを前面に用意し、車椅子で来院する患者のために、入口右側にスロープを設けている。

やはり鎌倉は海沿いの町である。入口は防風・防塵対策として、二重ドアになっている。セキュリティ対策として、内側扉の外側にシャッターを下ろすようにしている。また待合室の開口部には窓ではなく、乳白色のガラスブロックを使い、採



光と視線の遮断、そして防犯の効果を持たせている。幼児用のカーペット敷きのコーナーやDVD用のモニターを設置、待ち時間の患者への精神的負担軽減も図られている。

室内は、これまでの建物が昔の洋館でありながら2700ミリという高い天井高であったため、引き続き建て主の要望で、診療室、住居部分とも天井の高いゆりの空間を創出している。

母上のスペースに続く廊下には手すりを付けたり、洋館で使われていた建具を利用したり、と細かい心遣いが見られる。

広々とした屋上から鎌倉の三方の山を望むことができ、海風が心地よい。



①南側外観昼景②南側外観夜景。ガラスブロックの壁面が明るい。③住居部分エントランス夜景。母世帯と子世帯の入口を分けている。④診療室入口。左側が診療室への扉。右側の扉がトイレ、2ウェイの診療室入口。この奥に聴力検査室やネプライザーコーナーがある。⑤診療室。⑥多機能トイレ。

〒248-0012
神奈川県鎌倉市御成町5-6
TEL:0467-25-3387
<http://www.akaojibika.jp/>

診療時間 午前09:30~12:30
午後15:00~18:30
土曜の午後は17:00まで
休診日 日祝木終日、火午後

構造：RC造 地上2階
用途：医院併用住宅
設計：綱川建築事務所
完成：2007年6月 撮影：スタジオ・ミュー

R a f f i n e すみだ

外壁タイルとエントランスの色使いが落ち着いた雰囲気をかもし出す、高級マンション

最寄り駅は、本所吾妻橋、押上、業平橋と利便性のよいロケーションである。業平タワーの建設も決定し、町は活気を得ているようだ。

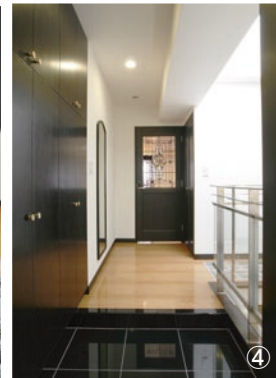
構成は、1階エントランス、2~5階が賃貸、6~7階が建て主の自宅である。

外壁は、タイル貼りで正面の柱型を黒色タイル貼りとし、1階エントランスも白、黒色の石を使用している。

全体を白と黒のモノトーンでまとめることで、調和の取れた、高級感のある建物となっている。

隅田川の花火が屋上から眺望できる、人気のマンションとなることだろう。

構造：RC造 地上7階
用途：共同住宅
設計：大場大司／司建築設計
完成：2007年4月
撮影：スタジオ・ミュー



①建物全景。外壁の白タイルと濃い色のタイルの対比がすっきりとした印象を与える。②1階エントランス。壁に白い石を採用、賃貸マンションでありながら、グレード感のある仕様となっている。③7階建て主住居のエントランスと下層階への階段部分。床のガラスブロックは、天井のトップライトの光をそのまま下階に落としている。④7階エントランス。黒い床のタイルと、家具や引き戸の色が落ち着いた雰囲気をかもし出す。



赤尾一郎院長先生 洋館の前で

赤尾一郎 profile

昭和61年 聖マリアンナ医科大学卒業
 同61年～63年 大学付属病院耳鼻咽喉科研修医
 同63年～平成1年 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
 平成1年～2年 国立がんセンター研究所病理部研究員
 同2年～6年 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科医長
 同6年～8年 大船中央病院 耳鼻咽喉科部長
 同8年～9年 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院医長
 同9年～16年 横浜総合病院 耳鼻咽喉科部長
 同16年 赤尾耳鼻咽喉科医院 院長

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、医学博士

今月、ご紹介した「赤尾耳鼻咽喉科医院」のこれまでの建物は、昭和10年に建てられた歴史的な洋館として、長い間街の人々に親しまれてきました。

残念ながら、今回新しく医院が建つと同時に解体されることになりますが、赤尾一郎先生にご案内いただき、その姿を皆様にもお伝えすることにしました。

ハーフティンバーに切妻屋根の家には、テラスもついています。通りに面して木造の2階建ての部分が医院で、その奥に平屋の和風の住宅スペースが繋がっています。(写真①)

玄関はタイルが腰の高さまで貼られ、開口部はレトロなデザインの木製の窓や扉がしつらえてあります。足もとの階段は踏みづら、蹴上げ部分が1つの石に彫られたもので、職人の丁寧な仕事ぶりを見ることが出来ます。最近あまりみかけることの出来ない仕事だと辰のM建築部長は感慨深げです。(写真②)

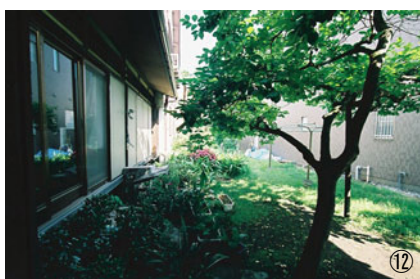
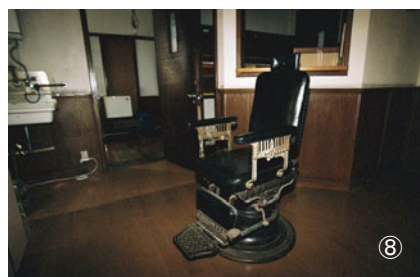
玄関を上がってすぐ前が受付、左側が待合室です。(写真③) 右側の壁の上の方に飾られているのは、昭和20年、第42代内閣総理大臣となった鈴木貫太郎の手になる『起死回生』という書。初代三郎先生に贈られたものです。(写真④) 診療室の扉の六角形のノブも時代を感じさせるものです。(写真⑤) 反対側に看護婦室があり、カウンターの着いたベルが壁に残っていました。(写真⑥) 玄関を上がって右側はトイレや住居部分の玄関へと続いています。手前に2階への階段があり、手摺には彫刻が施されています。(写真⑦)

「混んでいる時は、階段まで患者さんが並んでたんですよ」と赤尾先生。待合室は段差もあり、車椅子の患者さんが来たときは皆で持ち上げていたそうです。

診察室には昔の革張りの診察椅子が置かれていました。今は使っていないそうです。(写真⑧)

待合室の「耳の構造図」の看板。(写真⑨) 高い天井に高い窓からの光が明るい部屋でした。診察室の右奥には、「手術室」があり(写真⑩)、さらにその隣に、書斎に使っていた部屋があります。漆喰の壁や天井はさながら茶室のようですが、マントルピースがあります。上の部分の白の大理石は下方5センチほどが房飾り模様に彫っており、その下のタイルは鮮やかな赤色に緑色が散っている焼き物です。ここには電気ストーブを置いて使っていたそうです。(写真⑪)

診察室や書斎を抜けて、北側の平屋の部分は、和風の住居スペースです。長い縁側が西側の庭に面しています。(写真⑫) 写真の右側が新しい建物。これだけの大きさの建物が建ったわけですから、もとのお庭はかなり広く、季節ごとの花や実を楽しむことのできる木々が咲いていました。この歴史ある建物をご家族の皆様の心の中にこれからも生き続けていくことでしょう。





本日は近隣回りをを行う。現場周辺の写真を撮る。工事終了後、周辺で何か壊したりしていないか確認を取れるよう、事前作業を行うのである。また現場の近所の方とは長い付き合いになるので、ご迷惑をおかけすることへのお詫びはもちろん、よく工事についてご理解をいただくため、実際に会って話をさせていただくようにしている。

四月九日(月)
「(仮称)三宿一丁目ビル」の仕事が始まった。地上五階、地下一階、RC造+S造の店舗併用住宅である。アーキテクチャー・ワークショップの北山恒先生の設計である。常に新しい試みをされる先生だが、以前、新宿区の「20K」で担当させていただいたときは、「外部引戸」の製作金物を作るために、たくさんさんのサンプルを用意し、最良のものを求められた。今回は、外壁の「折戸」が面白いものになりそうだ。開口部に、外側へ開く扉がつけられる。かなりの大きさになる予定だ。三宿の設計担当は工藤氏。要求されることも多いが、こちらの苦勞も理解してくるので、やり甲斐がある。

四月二十三日(月)
遺方。現場の敷地、建物の位置決め。実際の敷地と図面が異なることもたまにある。設計事務所に確認してもらい、工事が始

四月十九日(木)
地鎮祭。
建て主は不動産企画の「リブコム」である。渋谷区はこの周辺では、いくつも工事をさせていたっている。この計画も、三社の工事入札を経てうちが受注した。



新しい現場の準備に
追われる毎日

四月十日(火)
仮設工事に入る。電気、水道などを引き、仮囲いを行う。
四月十一日(水)
引き続き近隣回り。最近では日中留守にされているお宅が多いが、「来なくていい」と言われた場合を別にして、アポイントをとって極力お会いする。コミュニケーションが全然違ってくるからだ。この間にほかの現場の仕事も入ってくる。

1964年 埼玉県生まれ
1988年 神奈川大学工学部建築学科卒業

趣味: 子供との畑仕事。今年はプランターで稲作に挑戦中。

担当した主な物件(設計者)
イサミヤ第八ビル(有馬立郎)
20K(北山恒)
C-ONE(内海智行・グエナエルニコラ)
松涛の家 Y邸 (内海智行)
T邸 (齋藤祐子)

五月十四日(月)
現場事務所開設。三宿の交差点近くのビルに部屋を借りた。ここは五月の連休中に工事が始まった、近くの「(仮称)下馬五丁目PJ」の事務所も兼ねており、同じアーキテクチャー・ワークショップの設計である。担当者は、金氏と江向氏。そちらの定例会議は火曜、辰の担当はN主任。木曜が「三宿」の定例会議である。出席は、意匠設計事務所、設備設計事務所、構造設計事務所、そして施工会社の我々である。
このプロジェクトは建築プロデュースの「アーキネット」の企画によるコーポラティブハウス。地上三階建て、全六住戸の住民が組合を作り建設に臨むというものだ。施工会社としてはそれぞれのインフィルにきめ細かい対応が求められる。
この大きな新築現場の工事管理の間に、以前施工した物件のメンテナンスやリフォームの現地調査の同行依頼が、いくつも入ってくる。日々これをこなしていくしかない。

TOPICS/INFORMATION

「S邸 新築工事」 地鎮祭 5月3日

大きな開口部、中庭のある住宅です。

構造:RC造
規模:地下1階 地上2階
用途:専用住宅
設計:大堀伸/ジェネラルデザイン
完成予定:2007年12月



「下馬5丁目PJ 新築工事」 地鎮祭 5月13日

洗練されたデザインのコーポラティブハウスです。

構造:RC造
規模:地下1階 地上3階
用途:共同住宅
設計:北山恒/architecture WORKSHOP
完成予定:2008年1月



「渋谷本町計画Ⅱ 新築工事」 地鎮祭 5月27日

山手通より望める低層棟・高層棟の賃貸マンションです。

構造:RC造
規模:地下1階 地上8階
用途:共同住宅
設計:長田直之/ICU+
完成予定:2008年4月



「新入社員が入りました」

先月号でお知らせした「リクナビNEXT」の中途社員募集の結果、短期間ではありましたが、20人の応募をいただきました。「世界にたった一つのオリジナル建築に愛をそそぐ」というキャッチフレーズが、若者たちの心を捉えたようです。ユニークな経歴の持ち主も多く、書類審査の後10名の面接を行い、その結果4名(男3名、女1名)の新しい社員を採用いたしました。後日ご紹介させていただきます。

編集後記

・鎌倉の洋館は私邸が多く中を見られない建物も多いのですが、赤尾耳鼻咽喉科近くの鎌倉風致保存会事務所(旧安保小児科医院)、鎌倉文学館(旧前田邸別邸)や旧華頂宮邸などは、一般公開しており見学することができます。雨の季節、アジサイ寺だけでなく、洋館めぐりもまたおつなもの。親しい方とお出かけになってはいかがでしょう。

